

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (10) ハルとデッキの接着

(10) ハルとデッキの接着

2011年 9月 19日(月曜日) 18:54 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📄](#) [✉](#)

フィレットイングを施しグラステープで補強したハルとデッキをいよいよ接着します。まずハルやデッキと同様に仮接着し、その後接合部のフィレットイングを行います。ハルとデッキの間に材木を挟み少し浮かせて、あらかじめ長めの銅線を通しておかないとあとでと言うわけにはいかない。端から銅線を捻り留めていきますが、何本かねじ切ってしまい、再度通すのにえらく難儀しました。



メインメニュー

[Home](#)

[工房 "KAYAK9"](#)

[Wood Duck 12の製作](#)

[カヤック製作準備](#)

[アトリエ](#)

[情報源](#)

[アマゾン号に乗りたい!](#)

[コンタクト](#)

[プロフィール](#)

[ブログフィード](#)

[Links](#)



デッキもハルもその形状で固まっているとは言うものの、やっぱりところどころピッタリ合わない箇所があるため、銅線で締めたり荷造りテープでギリギリ締めたりして仮接着用エポキシの硬化を待ちます。



一晩経てばエポキシはタックフリーになりますが、十分な硬化までは達していません。無理矢理締め付けているところもあるため、硬化していないと反発力で剥がれる心配もあり、このままの状態の数日間硬化を待ちました。この後のフィレット作業に備えて船を横倒しにしておきましたが、ボトム形状を始めてしげしげ眺めた気がします。



銅線を撤去し、仮接着してあるだけのハルとデッキ接合部をフィレットング、そしてファイバーグラステープによるエポキシ強化を施します。と言うのは簡単なんですが、作業箇所は船の内側、コックピットに手を突っ込んで行うしか方法がありません。でも先っぽまで手が届かないじゃないか！マニュアルには「で

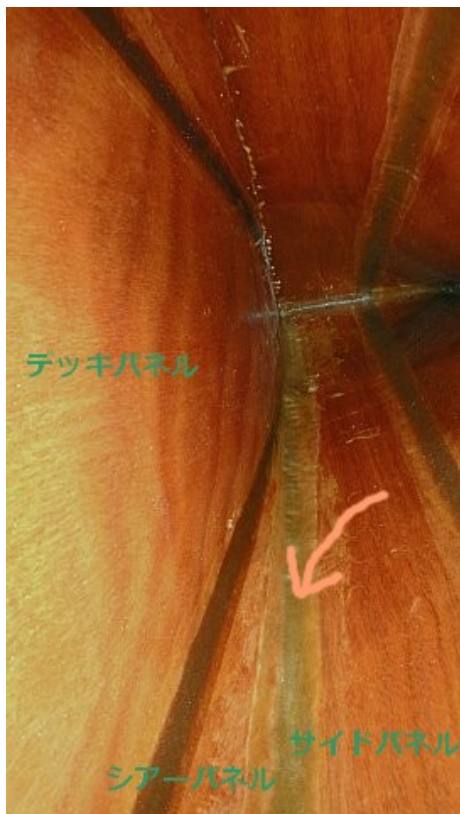
きるだけで良い」と書かれているものの、手が届かないのは一番力がかかるパウとスターンですから、なんとかしてちゃんとフィレットिंगしたいものです。



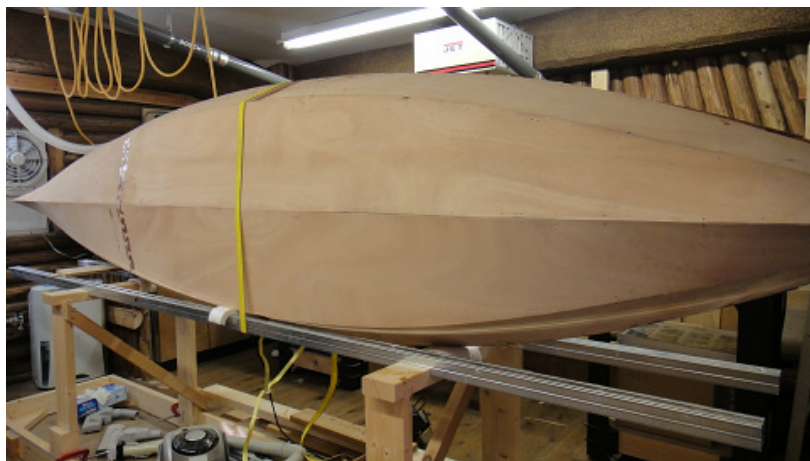
照明で奥の方を照らし、手が届かない部分（体ごと潜ろうかとも思いましたが、まだやめた方が良いでしょう）にはこんな道具を使いました。



マニュアルにも記載されている通りの刷毛ですが、反対側にはスプーンをくりつけて、手の届かないパウ、スターンの接合部にフィレットング用エポキシを運び整形しました。予めエポキシを浸透させたグラステープの端を棒の先にくっつけて、パウ（スターン）の先までソロソロと持っていく、できる限り綺麗に補強しました。でも、写真に見るように出来上がりはさすがに綺麗とは言い難い。



なんとか両サイドをフィレットイング、グラステープ強化して艇体の形がようやく完成です。この後、船体表面のサンディング、そしてファイバークラッシングと続きます。



最終更新 (2011年 9月 19日(月曜日) 22:11)

© 2009 [Kavak Dog](#)
All Rights Reserved.

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting